

活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	木を育て森を育てる ー日本の林業ー		
実施日時	平成30年 5月31日(木) 10時~12時		
実施場所	千葉市文化センター		
受講者	29名	FIC会員	15名

活動の内容

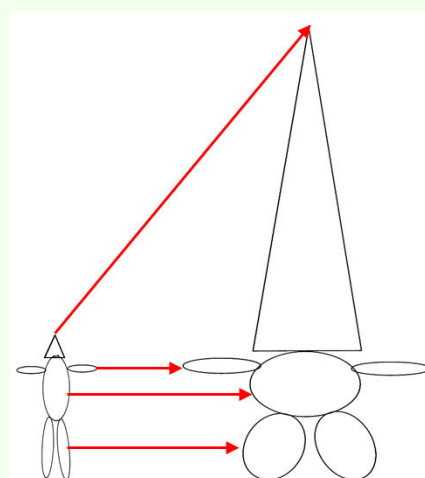
平成30年度前期第4回の講座として千葉市文化センターで室内講義を実施。

日本での代表的な林業の形態である苗木を植え育てて伐採して木材を収穫する育成単層林施業(林業では、森林育てるための植栽、間伐などの作業及びその作業全体を施業と呼んでいる)について、施業の順にしたがってその内容、目的などを説明。

①優れた遺伝形質を持つ木を選抜し、その木から種子を取り苗木を育てる。②植林のために森林を整備する地拵えを行う。③苗木が草に負けなくなるまで下草刈りを行う。④木に巻き付くつるを切る。⑤スギやヒノキなどの目的樹種以外の進入してきた木や目的樹種の中でもこの先見込みのない木などを切る除伐、⑥幹が下の方と上の方で太さがるべく変わらない形(完満な形という)になるように、加えて、年輪幅のコントロール、節(ふし)減らすためなどに行う枝打ち、⑦込みすぎた木を抜き切りする間伐、⑧最後の収穫となる主伐、⑨さらに、収穫した丸太の流通を担う木材市場の様子など。また、森林を育てるための関連事項として、樹木の生長について説明。

次に、森林が果たしている環境保全機能の事例として、①カリフォルニア州において、昨年の大火災によって森林が失われた後に土石流と大洪水が発生したこと、②大正6年の台風のために森林がなぎ倒されてしまった鹿野山で、ほとんどの井戸が涸れてしまったことを説明。

最後に、最近の森林に関する話題として、鴨川市の山林に計画されているメガソーラー、今の国会に上程されている森林環境税について簡単な説明を行った。



子どもへの説明用に作成した図
「もし、人が木のように育ったら」



スギ、ヒノキ、サワラの枝葉を展示・説明



下草刈り前の森林



下草刈り後の森林